

検体検査項目 説明

大阪府済生会中津病院検査技術部 令和2年6月作成

	検査項目	説明
血液検査	白血球数	血球成分の一つ。異物の混入に対抗して体を守る働きをしています。少ない場合は、体の防御反応が低下し、病気にかかりやすい事を意味しています。
	赤血球数 ヘモグロビン ヘマトクリット値	赤血球は、体の様々な細胞へ酸素を運び二酸化炭素を受け取って肺まで運びます。この中心的な働きを担っているのはヘモグロビンです。
	MCV MCH MCHC	赤血球数・ヘモグロビン量・ヘマトクリット値から計算する指数で赤血球の体積や色の濃さを表し、貧血の原因を鑑別する手掛かりが得られます。
	血小板数	出血した部位に集まって止血する働きがあり、止血能力の指標の一つです。
	網赤血球数	生まれたての若い赤血球で、骨髄での赤血球の造血能力を把握できる検査です。
	好中球 好酸球 好塩基球 リンパ球 単球	白血球には5種類あり、顕微鏡等で種類ごとに数を検査します。病気によって増減する種類が変わるので、病気や症状を知る手がかりになります。
	出血時間	血液が止まるまでの時間を測定する検査で、血液の止血機能を総合的に見る検査です。
	PTー時間 PT-活性 PT-INR	血液の凝固異常を調べる検査です。ワルファリン治療時に薬の量を調節するために測定します。
	APTT	血液の凝固異常を調べる検査です。血友病など出血性の病気やヘパリン療法の経過観察にも必要な検査です。
	フィブリノゲン量	止血に関与する血液凝固因子の一つで、血液凝固の仕組みに異常をきたす病気などで低くなります。高い場合は、炎症の指標となります。
電解質	ナトリウム カリウム クロール	体内の水分調節の状態を見ます。腎臓の病気やホルモンの異常、脱水などで高くなったり、低くなったりします。
	カルシウム	骨の病気や様々な内分泌の病気の変動します。また、心臓や血管の働きにも重要な役割を果たします。
	マグネシウム	酵素の働きやエネルギー代謝に重要です。カルシウムとともに心臓や血管の働きをつかさどる大切な物質です。
	無機リン	体内では骨に存在しカルシウムと結合しています。内分泌や骨の代謝異常の有無をカルシウムと組み合わせることで病気の診断に役立ちます。
鉄分	血清鉄	酸素を運ぶヘモグロビンの構成物質です。出血や鉄欠乏性貧血で低くなり、肝臓に障害が生じたときは高くなります。
	フェリチン	鉄を貯蔵する蛋白で体の鉄貯蔵量を表し、鉄欠乏性貧血などの指標となります。また、炎症反応や悪性腫瘍などの腫瘍マーカーとしても使われます。
糖代謝	血糖	血液中のブドウ糖濃度で体のエネルギーとして大切な栄養素です。糖尿病の重要な指標の一つで、食事の影響を受けます。
	HbA1c	過去1～2ヶ月の平均的な血糖値の程度を反映し、高血糖状態が続くと高くなります。糖尿病での血糖値管理に有用です。
	GA	過去約2週間の平均的な血糖値の程度を反映し、糖尿病の治療効果を判断するのに役立ちます。
腎機能	尿素窒素	蛋白質が分解されたもので、腎臓の機能が低下すると高くなります。
	クレアチニン	運動のエネルギー源となるアミノ酸が代謝されてできた物質で腎臓から排泄されます。腎臓の機能をみています。
	尿酸	細胞を作る際の成分であるプリン体が分解してできた老廃物で腎臓から排泄されます。痛風や腎臓の機能障害の指標になります。
蛋白	総蛋白	血液中の蛋白質の総量を表し、栄養状態や肝臓・腎臓の機能をみています。
	アルブミン	肝臓で作られ全身の栄養状態の指標となる蛋白質で、肝臓の病気や腎臓の機能低下で低くなります。
心機能	CK	心臓や骨格筋などの損傷の程度を反映します。心筋梗塞などの心臓病や筋肉の病気が高くなります。
	BNP	心臓の状態を判断するための検査で、主に心不全で高くなります。
	AST(GOT)	肝臓、心臓、筋肉の細胞に多く含まれている酵素で、肝障害や心筋梗塞などで高くなります。

肝機能	ALT (GPT)	肝臓に多く含まれている酵素で肝臓や胆道の病気で高くなります。肝臓細胞の障害を敏感に反映します。
	LDH	広く体内各臓器に存在する酵素で、臓器の損傷の程度を見る一次的な検査として重要です。特に肝臓や血液の病気などで高くなります。
	γ-GTP	肝臓や胆道の病気で異常を示し、アルコール性肝障害でも高くなります。
	ALP	肝臓・胆道や骨の状態をみています。成長期にある小児は成人よりも高い値を示します。
	CHE	肝臓の病気で低くなり、有機リン剤による中毒でも低くなります。脂肪肝では、高くなります。
	T-BIL	肝臓・胆道の障害で高くなり、黄疸の指標になります。
膵臓	総アミラーゼ	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素で、膵臓や唾液腺の病気で高くなります。
脂質	総コレステロール	体の脂肪成分の一つで、高すぎると動脈硬化症などの生活習慣病の原因となります。
	中性脂肪	体の脂肪成分の一つで、高すぎると動脈硬化の原因となります。食後に高くなります。
	HDL-C	善玉コレステロールと呼ばれ、血管に付着したコレステロールを取り除き、動脈硬化を防ぎます。
	LDL-C	悪玉コレステロールと呼ばれ、増加するとコレステロールが血管に溜まり、動脈硬化が促進します。動脈硬化の直接的な危険因子です。
免疫	CRP	身体に炎症があると高くなり、回復とともに低くなります。炎症のほか心筋梗塞などでも高くなります。
	赤沈	赤血球が試験管内で沈んでいく速度を測定する検査で、感染症や炎症性の病気などで値が高くなります。
	RF	慢性関節リウマチや膠原病で値が高くなります。
	IgG	血液中に最も多く含まれる免疫グロブリンで、慢性炎症性疾患で高くなります。
	IgA	IgGに次いで多く含まれる免疫グロブリンで、血液と分泌液にあり、喉や鼻などの粘膜感染の免疫に大切な働きをしています。
	IgM	最も大きい免疫グロブリンで、感染症では早期に高くなって体を守る働きをします。
感染症	梅毒RPR定性 TPLA定性	梅毒感染の有無を検査しています。
	HBs抗原定性	B型肝炎ウイルスに感染しているかどうかわかります。感染していても症状がないこともあります。
	HCV定性・定量	C型肝炎に感染しているか、または過去に感染したことがあるかがわかります。
	感染対策HIV	後天性免疫不全ウイルスに感染しているかがわかります。陽性の場合は、更に確認のための検査が必要です。
ホルモン	TSH	甲状腺ホルモンの分泌を調整する脳から出されるホルモンで、甲状腺の病気を診断するための検査です。
	FT3	甲状腺ホルモンの一つ。エネルギー代謝の調節や自律神経をコントロールしています。甲状腺機能亢進または低下で日常生活に支障をきたすことが有ります。
	FT4	病気の程度や治療効果のめやすになります。
尿検査	尿蛋白	腎機能に障害があると蛋白の再利用が出来にくくなり、尿中に蛋白が漏れ出て尿蛋白陽性になります。運動後やストレスでも偽陽性になることが有ります。
	尿糖	血中のブドウ糖(血糖)が高くなり、腎臓の閾値をこえると尿中に漏れ出てきます。糖尿病や甲状腺機能亢進症、腎性糖尿で尿糖陽性になります。
	尿潜血	肉眼では見えないわずかな血尿の状態を『潜血』といい、腎臓から尿道までの出血の有無がわかります。
	赤血球数 白血球数 円柱 その他	尿中の有形成分を顕微鏡で調べ、赤血球や白血球などの有無数の増加をみます。腎臓や尿路系の病気の診断に重要な検査です。
便	便ヘモグロビン	消化管からの出血の有無を調べる検査で、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎、大腸ガンなどで陽性となり、痔などで出血している時にも陽性になります。